

# 連携アプリケーション導入手順書

## <ご注意>

- ・医療費助成情報の利用について

医療費助成情報については、PMH 事業に参加している先行実施機関のみ利用可能となります。

※本章以降に記載の「PMH」並びに「医療費助成情報」に関する内容をご確認頂く際はご注意ください。

第 3.03 版

2024 年 2 月 19 日

## 変更履歴

項番	版数	変更理由	変更内容	変更箇所	変更区分 (追加/変更/削除)	年月日
1	1.00	初版作成	初版作成	-		2020/11/16
2	1.01	変更	定義ファイルの文字コード誤りを修正	- 4.2 暗号化識別ファイルの設定 - 4.3 個別暗号化モジュールの設定 - 4.4 ユーザー定義ファイルの設定 - 4.5 システム定義ファイルの設定	変更	2020/12/24
3	1.02	変更	連携アプリの再起動について記載	- 4.1 資格情報マネージャーの設定 - 4.2 暗号化識別ファイルの設定 - 4.4 ユーザー定義ファイルの設定 - 4.5 システム定義ファイルの設定	変更	2021/01/15
4	1.03	変更	外部暗号化モジュールについて記載	- 4.3 個別暗号化モジュールの設定	変更	2021/2/19
5	1.04	追加	- 定義ファイルへの定義例追加 - 設定情報更新時の注意事項を追加 - OQS_LOGIN_KEY の説明を修正 - 消し忘れファイルの削除について注意事項の修正	- 4.1 資格情報マネージャーの設定 - 4.4 ユーザー定義ファイルの設定 - 4.5 システム定義ファイルの設定 - 4.6 消し忘れファイルの削除機能の設定	変更	2021/3/24
6	1.05	変更	- 定義ファイルへの定義例の誤記を修正	4.4 ユーザー定義ファイルの設定 (P26)	変更	2021/03/25

項番	版数	変更理由	変更内容	変更箇所	変更区分 (追加/変更/削除)	年月日
7	1.06	変更	デフォルトのフォルダを用いた 記載に変更 共有フォルダ設定の確認方 法例を追加 [Windows 資格情報の登 録]の登録項目の表に必須 列を追加 [Windows 資格情報の削 除]に関する記載を削除 定義ファイルへの定義例の誤 記を修正	- 3.2 共有フォルダの設定(P10,P12) - 4.1 資格情報マネージャーの設定 (P16,P17) -4.4 ユーザー定義ファイルの設定 (P25)	追加/変更/削除	2021/5/28
8	1.07	変更	インストーラーについての補足 文を追加 共有フォルダ時の注意点を追 加 医療機関コードの設定値の 説明文を変更 二重起動の説明を追加 導入後の動作確認手順の 説明を変更	- 3.1 連携アプリケーションインストーラーの実 行(P5) - 3.2 共有フォルダの設定(P13) - 4.1 資格情報マネージャーの設定(P17) - 5. 連携アプリケーションの定期起動の設定 (p38) - 6. 導入後の動作確認手順(p39)	追加/変更	2021/6/25
9	1.08	追加	ログのローテートについて、注 意を記載 消し忘れ対象ファイルを記載	4.5 システム定義ファイルの設定 (P30) 4.6 消し忘れファイルの削除機能の設定 (P31)	追加	2021/8/4
10	1.09	変更	注釈の文章を修正	4.5 システム定義ファイルの設定 (P29)	変更	2022/1/31

項番	版数	変更理由	変更内容	変更箇所	変更区分 (追加/変更/削除)	年月日
11	1.10	変更	消し忘れファイル削除結果ファイルの出力先の説明を追記	4.6 消し忘れファイルの削除機能の設定 (P32)	追加	2022/2/28
12	1.11	追加	結果データファイルの外字● 変換説明追記	6.導入後の動作確認手順 (P40)	追加	2022/5/30
13	1.12	追加	診療情報の追加に伴い名称 を変更	4.2 暗号化識別ファイルの設定 (P20)	変更	2022/6/30
14	1.13	追加	文字コード Shift_JIS の許 容範囲説明追記	6. 導入後の動作確認手順 (P40)	追加	2022/7/29
15	2.00	追加	電子処方箋管理サービス追 加に伴う追加	1.はじめに (P1-2) 3.2 共有フォルダの設定 (P10) 4.2 暗号化識別ファイルの設定 (P19- 22) 4.4 ユーザー定義ファイルの設定 (P27- 28) 4.5 システム定義ファイルの設定 (P32) 4.6 消し忘れファイルの削除機能の設定 (P35)	追加	2022/8/31
16	2.01	変更	インストーラーの変更対応	1.4 導入時の前提条件 (P3) 2.導入手順概要 (P4) 3.1 連携アプリケーションインストーラーの (P5) 実行 4.4 ユーザー定義ファイルの設定 (P24)	変更	2023/1/18
17	2.02	電子処方箋管理 サービス利用開始 に伴う修正	「電子処方箋管理サービスの 利用開始時期について」の文 言を削除	表紙	削除	2023/2/28

項番	版数	変更理由	変更内容	変更箇所	変更区分 (追加/変更/削除)	年月日
18	3.00	変更	暗号化識別ファイルの設定 項目の表内「特定健診情報」を「健診情報」に修正	4.2 暗号化識別ファイルの設定 (P19)	変更	2023/8/30
19	3.00	変更	インストーラーの変更対応	2.導入手順概要 (P4) 3.1 連携アプリケーションインストーラーの (P5) 実行	変更	2023/8/30
20	3.00	追加	医療扶助対応に伴う追加	4.2 暗号化識別ファイルの設定 (P21)	追加	2023/8/30
21	3.00	追加	訪問オンライン診療対応に伴う追加	4.2 暗号化識別ファイルの設定 (P21,P22) 4.4 ユーザー定義ファイルの設定 4.5 システム定義ファイルの設定	追加	2023/8/30
22	3.00	追加	電子処方箋管理サービスの API 追加と API の名称変更に伴う対応	4.2 暗号化識別ファイルの設定 (P20,P22,P23)	追加/変更	2023/8/30
23	3.01	変更	暗号化識別ファイルの設定 項目の表内「健診情報」を 「特定健診情報」に修正	4.2 暗号化識別ファイルの設定 (P19)	変更	2023/11/15
24	3.02	追加	電子処方箋管理サービスの 保管調剤機能 API 追加対応	4.2 暗号化識別ファイルの設定 (P23)	追加	2024/1/15

項番	版数	変更理由	変更内容	変更箇所	変更区分 (追加/変更/削除)	年月日
25	3.03	追加	PMH 対応に伴う追加	3.2 共有フォルダの設定 (P10) 4.2 暗号化識別ファイルの設定 (P23) 4.4 ユーザー定義ファイルの設定 (P30-P32) 4.6 消し忘れファイルの削除機能の設定 (P39-P40)	追加	2024/2/19

# 目次

1. はじめに.....	1
1.1 本書の目的 .....	1
1.2 本書の構成 .....	1
1.3 本書の対象 .....	2
1.4 導入時の前提条件 .....	3
2. 導入手順概要.....	4
3. 資産の複写 .....	5
3.1 連携アプリケーションインストーラーの実行 .....	5
3.2 共有フォルダの設定 .....	10
4. 環境設定 .....	13
4.1 資格情報マネージャーの設定 .....	13
4.2 暗号化識別ファイルの設定 .....	18
4.3 個別暗号化モジュールの設定 .....	24
4.4 ユーザー定義ファイルの設定 .....	26
4.5 システム定義ファイルの設定 .....	34
4.6 消し忘れファイルの削除機能の設定 .....	39
5. 連携アプリケーションの定期起動の設定 .....	41
6. 導入後の動作確認手順.....	48

## 1. はじめに

### 1.1 本書の目的

本書は、医療機関・薬局等の HIS 等（レセコン含む）既存システム（以下、「既存システム」とする）とオンライン資格確認システム及び電子処方箋管理サービスが、ファイル連携するために使用する連携アプリケーションの導入手順を示す。

### 1.2 本書の構成

本書の構成を「表 1-1 本書の構成」に示す。

表 1-1 本書の構成

項番	資料名	概要
1	連携アプリケーション導入手順書（本書）	オンライン資格確認システム及び電子処方箋管理サービスとファイル連携するために必要な、連携アプリケーションの導入手順を記載した資料



### 1.3 本書の対象

既存システムとオンライン資格確認システム及び電子処方箋管理サービス間の連携には「①連携アプリケーション」、「②Web アプリケーション連携」、「③顔認証連携」及び「④WebAPI 連携」の 4 つの方式がある。本書は①の連携アプリケーションを対象とする。

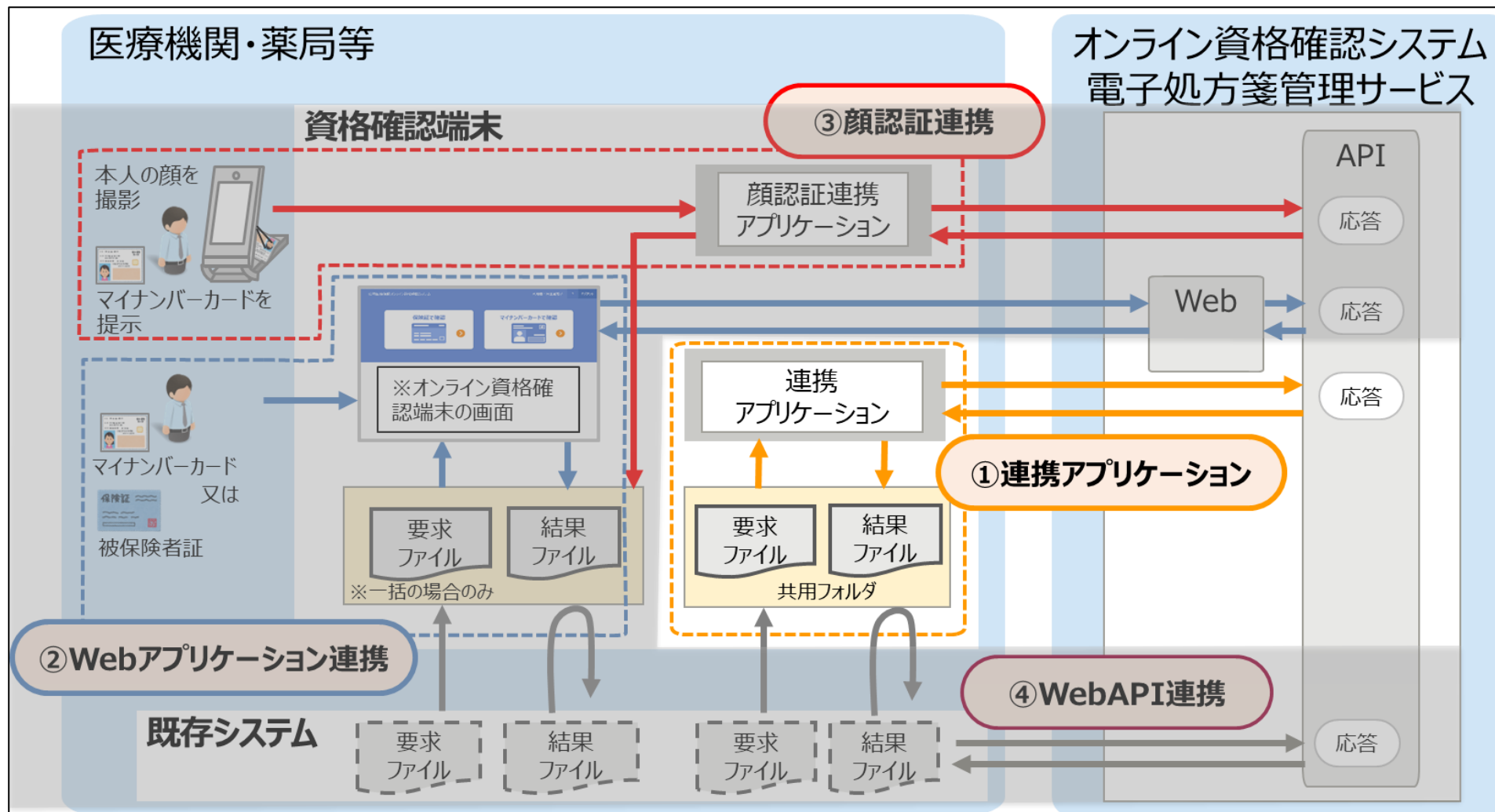


図 1-1 既存システムとオンライン資格確認システム、電子処方箋管理サービス間の処理概念図

## 1.4 導入時の前提条件

- 医療機関等向けセットアップで作成した OqsComApp ユーザー（管理者）にて作業を実施すること。
- 電子処方箋管理サービスを利用する場合、連携アプリケーションの導入が必要。既にインストール済みの場合は、下記の定義ファイルの設定見直しのみ必要。
  - 暗号化識別ファイルの設定
  - ユーザー定義ファイルの設定

## 2. 導入手順概要

導入手順の概要を以下に示す

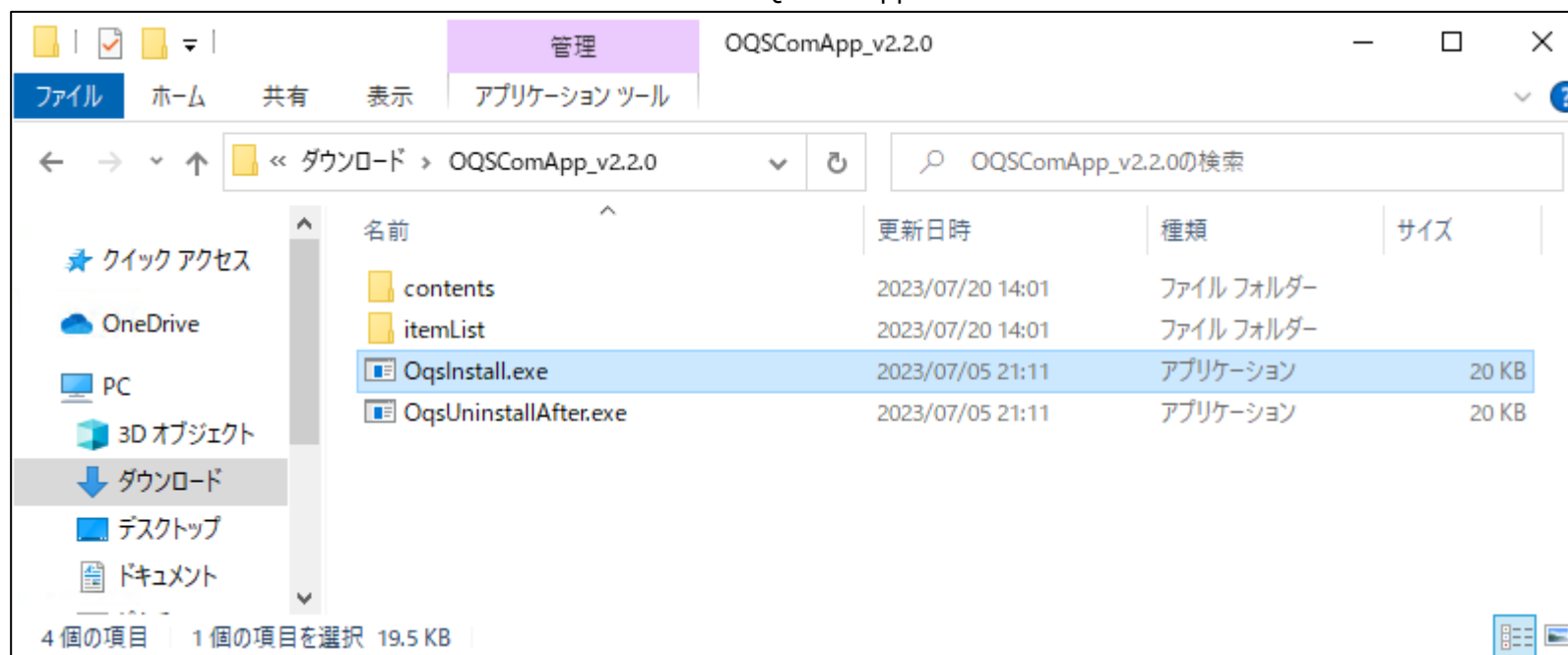
作業ステップ	作業項目	ツール：作業内容
資産の複写	インストール	・エクスプローラ：OqsInstall.exe 実行
	フォルダの共有	・エクスプローラ：フォルダの共有
環境設定	資格情報の登録	・コントロールパネル：資格情報マネージャ
	連携アプリ設定	・メモ帳："C:¥ProgramData¥OQS¥OQSComApp¥config¥encrypt.conf" 編集 (任意) ・メモ帳："C:¥ProgramData¥OQS¥OQSComApp¥config¥UserDefinition.property" 編集 (任意)
	個別暗号化設定	・エクスプローラ：個別暗号化アプリケーション 複写 (任意)
	タスクの登録	・スタートメニュー：コンピュータの管理：タスクスケジューラ 又は 登録バッチファイル実行 (パラメタあり：パスワード)

## 3. 資産の複写

### 3.1 連携アプリケーションインストーラーの実行

- ① 医療機関等向けセットアップで作成した OqsComApp ユーザーでサインインをし、ダウンロード（媒体）で提供されたインストーラーを実行する。

※ZIP 形式のインストーラーを提供しておりますが、セットアップで利用するのは OqsInstall.exe です。ただし、インストーラーのバージョンが 2.1.0 以降～2.2.0 より前の場合は Install.bat を、バージョンが 2.1.0 より前の場合は、OQSComApp.msi を使用します。



- ② 「Windows によって PC が保護されました」のダイアログが表示されるため、詳細情報のリンクをクリックする。（PC の設定によっては表示されないため、その場合はスキップすること）



- ③ [実行]ボタンが表示されるためクリックする。（PC の設定によっては表示されないため、その場合はスキップすること）



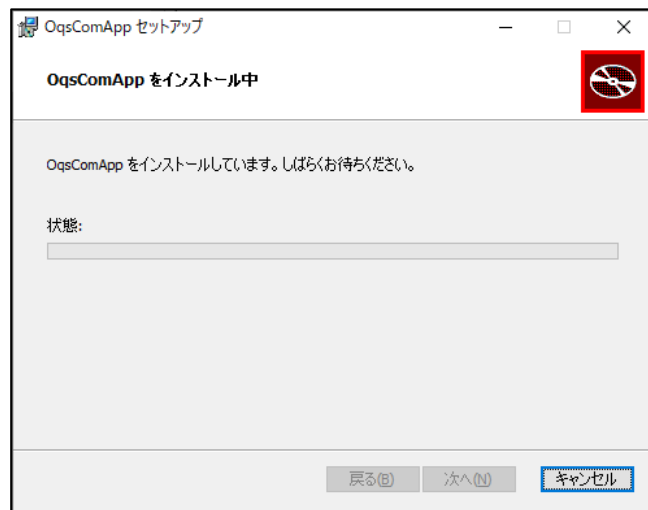
④ インストーラーが起動する。（PC の設定によっては表示されないため、その場合はスキップすること）



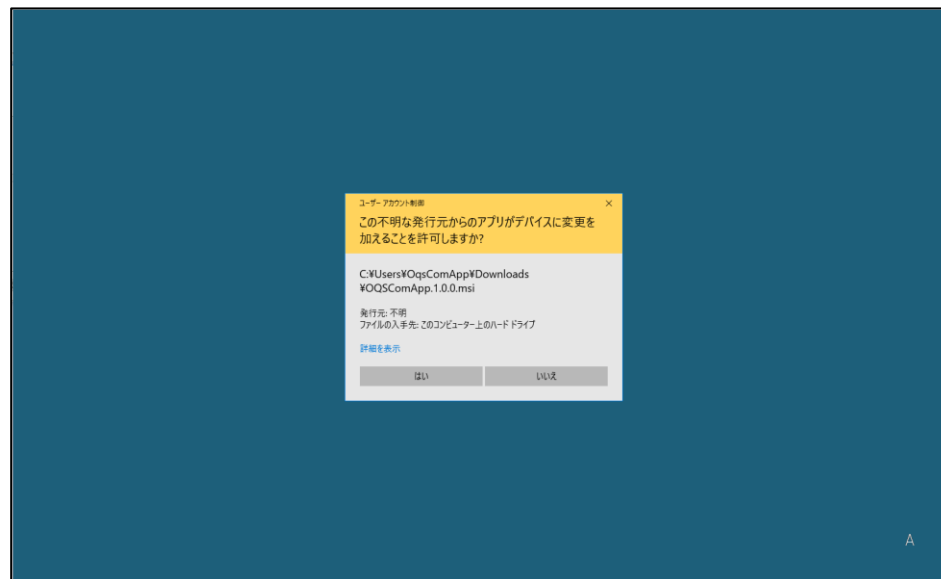
⑤ 利用規約が表示されるので、[使用許諾契約書に同意します(A)]にチェックを入れて、[インストール(I)]ボタンをクリックする。



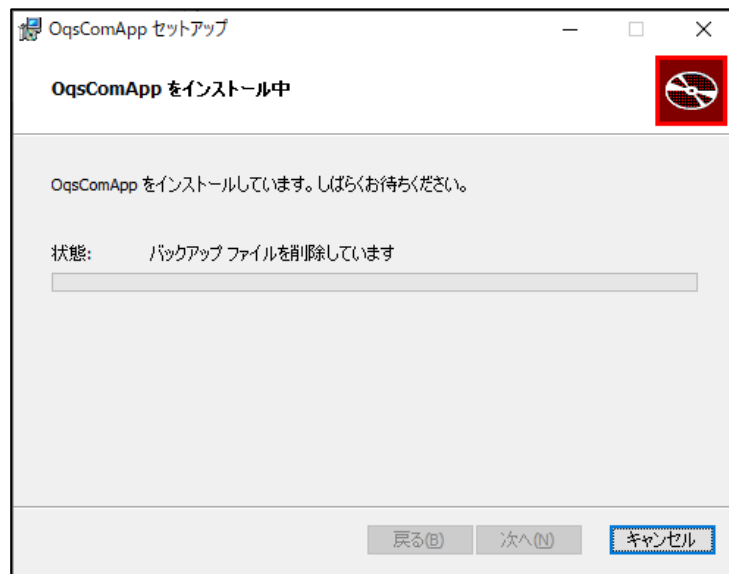
⑥ インストールが開始される。



⑦ デバイスの変更を許可するダイアログが表示されたら、[はい]ボタンをクリックする。



⑧ インストールが継続される。



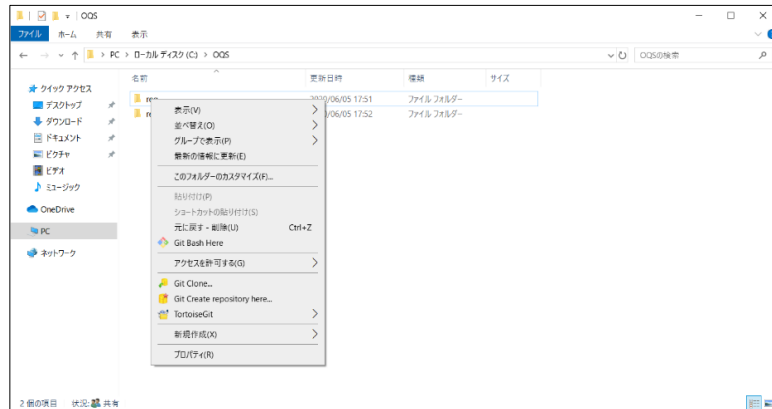
⑨ インストールが完了するとその旨が表示されるので、[完了(F)]ボタンをクリックして終了する。





## 3.2 共有フォルダの設定

- ① 要求データファイルや結果データファイルを格納するフォルダを共有する場合、共有したいフォルダを右クリックする。
- (フォルダは 4.4 ユーザー定義ファイルの設定 の RequestDataDir と ResponseDataDir、PrescriptionRequestDataDir と PrescriptionResponseDataDir、PublicMedicalHubRequestDataDir と PublicMedicalHubResponseDataDir で指定したフォルダ。それぞれデフォルトでは C:¥OQS¥req と C:¥OQS¥res が指定されている。)



- ② プロパティをクリックし、「共有」タブを選択後、[共有(S)…]ボタンをクリックする。



- ③ 共有を許可するアカウント名(医療機関で個別に決定したレセプトコンピュータからアクセスするアカウント名)を選択し、[追加(A)]ボタンをクリックする。(例として receiptcom を設定)

← ネットワーク アクセス

共有する相手を選んでください

名前を入力して [追加] をクリックするか、または、矢印をクリックして相手を検索してください。

receiptcom ▼ 追加(A)

名前	アクセス許可のレベル
OqsComApp	読み取り/書き込み ▼

[共有の問題の詳細を表示する](#)

共有(H) キャンセル

- ④ 「アクセス許可のレベル」を、読み取り／書き込みにし、[共有(H)]ボタンをクリックする

← ネットワーク アクセス

共有する相手を選んでください

名前を入力して [追加] をクリックするか、または、矢印をクリックして相手を検索してください。

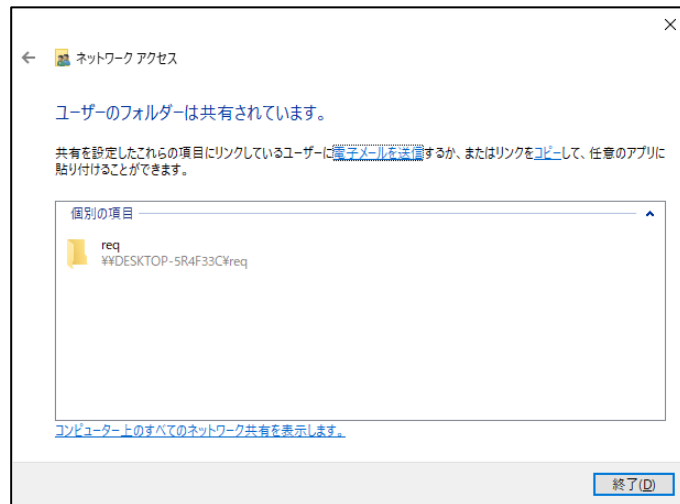
▼ 追加(A)

名前	アクセス許可のレベル
OqsComApp	読み取り/書き込み ▼
receiptcom	読み取り/書き込み ▼

[共有の問題の詳細を表示する](#)

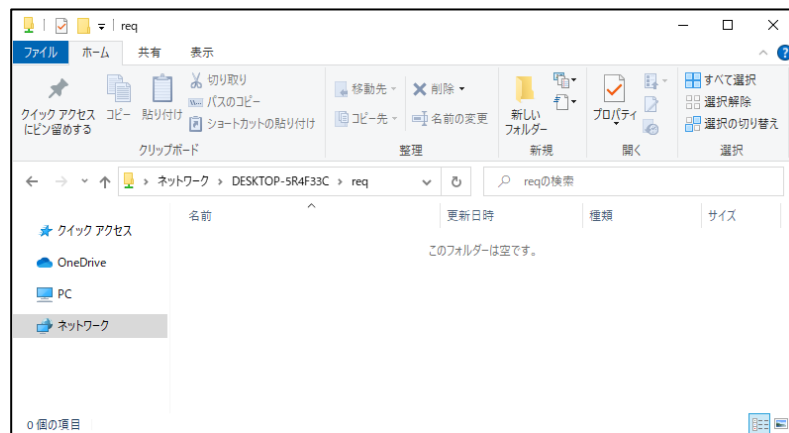
共有(H) キャンセル

⑤ [終了(D)]ボタンをクリックする



※連携アプリケーション動作前に、エクスプローラー等で共有フォルダにアクセスできるかを確認すること。

例：レセプトコンピュータ端末でエクスプローラーを開き、上記⑤で表示されたパス（例：¥¥DESKTOP-5R4F33C¥req（波線の部分には資格確認端末のホスト名です。））を入力し、フォルダにアクセスできること、ファイルの格納が可能であることを確認する。



※結果データファイルが共有フォルダに表示されない、操作できない場合は、別紙 トラブルシューティング補 9 を参照すること。

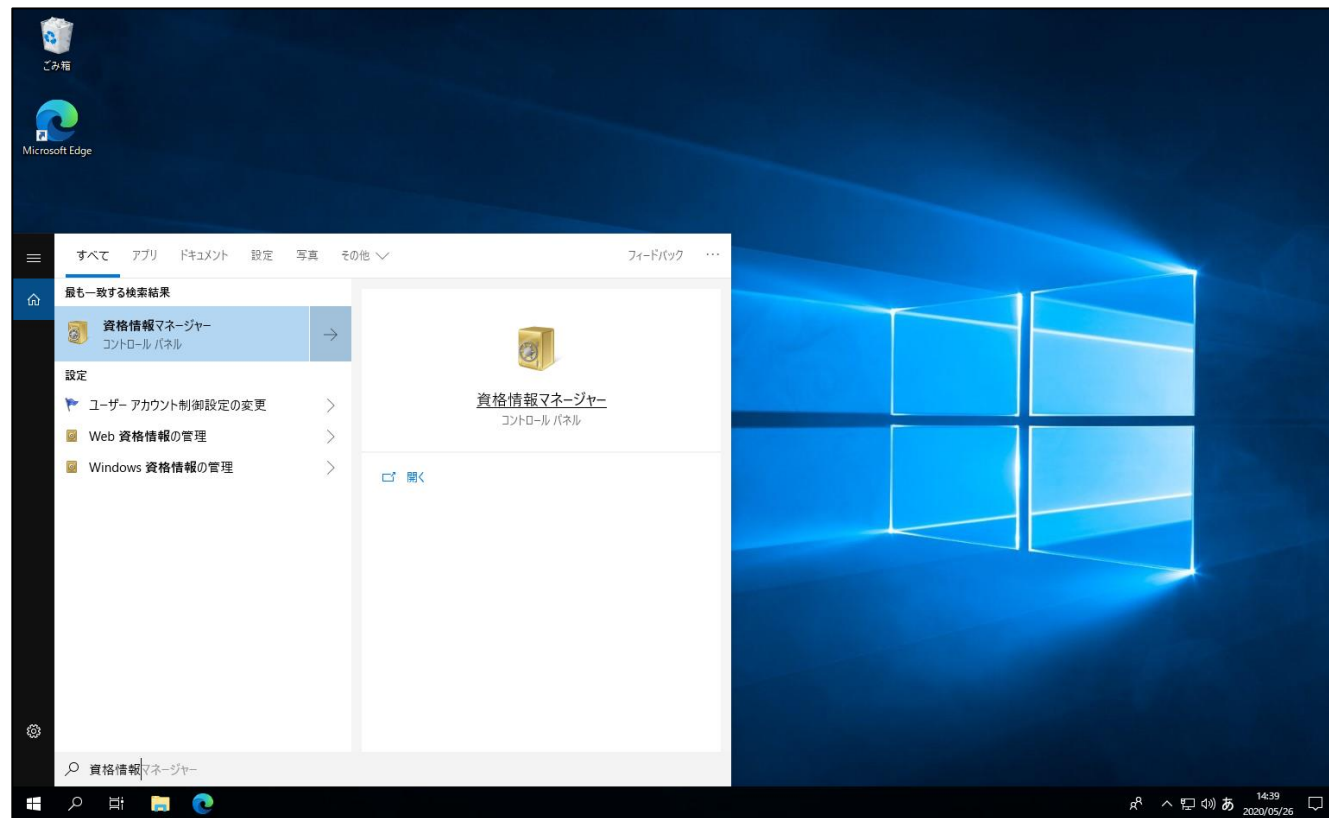
## 4. 環境設定

### 4.1 資格情報マネージャーの設定

「資格情報マネージャー」とは、起動したアプリケーションや、接続したネットワークへサインインするための資格情報を保存する、Windows の機能である。以下の手順にて資格情報の表示、登録及び削除ができる。

[資格情報マネージャーの表示]

- ① タスクバーの検索ボックスに「資格情報マネージャー」と入力し、[資格情報マネージャー コントロールパネル] を選択する。



② [Windows 資格情報] を選択して、管理する資格情報にアクセスする。



## [Windows 資格情報の登録]

Windows 資格情報の登録は、導入時に以下の手順により実施する。

- ① [Windows 資格情報]の[汎用資格情報の追加]を選択する。



- ② 以下の表に示す 4 つの「設定内容」の、「インターネットまたはネットワークのアドレス」、「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、[OK]ボタンをクリックして各設定内容を登録する。

設定内容	インターネットまたはネットワークのアドレス	ユーザー名	パスワード	必須
連携アプリ用アカウントの ID、パスワード	OQS_LOGIN_KEY	連携アプリ用アカウントの ID(R0 または R1 から始まるアカウント ID)を設定する	連携アプリ用アカウントのパスワードを設定する	○
医療機関コード	OQS_MEDICAL_INSTITUTION_CODE	OQS_Admin	数字 10 桁の医療機関コード	○
要求データファイルの復号、結果データファイルの暗号化パスワード	OQS_CRYPT_PASS	OQS_Admin	・半角英数字 ・12 桁以内 ※記号など半角英数字以外の文字を含めると連携アプリケーションによる資格確認の際にエラーとなります	×
共用フォルダのパスワード管理	OQS_NAS_LOGIN_KEY	3.2 で設定した共用フォルダにアクセスするユーザー名を入力する	3.2 で設定した共用フォルダにアクセスするユーザーのパスワードを入力する	×

汎用資格情報の追加

← → ↑ ↓ 検索 コントロール パネル ユーザー アカウント 資格情報でネジャー 汎用資格情報の追加

Web サイトのアドレスと資格情報を入力します

入力するユーザー名とパスワードが、この場所へのアクセスに使用できるかどうかを確認してください。

インターネットまたはネットワークのアドレス: OQS\_CRYPT\_PASS

ユーザー名: OQS\_Admin

パスワード: ●●●●●●●●●●

OK(Enter) キャンセル(Alt+C)



## [Windows 資格情報の変更]

登録した**汎用資格情報**の変更は、パスワードを変更する場合などに、以下の手順により実施する。

- ① [Windows 資格情報]の一覧より変更したい情報の名前を選択する。
- ② 編集を選択する。
- ③ 情報を入力し、[OK]ボタンを選択する。

資格情報を変更した場合、連携アプリケーションを再起動する必要がある。

以下のバッチを管理者権限で実行し、再起動すること。

C:¥Program Files¥OQS¥OQSComApp¥tools¥OQSComAppRestart.bat

※定義ファイルを含め変更した場合は、全てのファイルの変更後に、1 回だけバッチを実行すること



## 4.2 暗号化識別ファイルの設定

暗号化識別ファイルは、API 識別 ID に対応する要求データファイルが、暗号化されているかどうかを定義するファイルである。

暗号化識別ファイルのファイル仕様を以下に示す。

項目	定義形式	備考
ファイルフォーマット	改行区切り、可変長テキスト形式、UTF-8、BOM なし	
改行コード	CR+LF (0x0d, 0x0a)	
行レイアウト	API 識別 ID=暗号化識別	API 識別 ID : 要求データファイル (変名前) の先頭 13 桁 暗号化識別 : 要求データファイルが暗号化されているかどうかを示す識別子 "n"又は"N" : 暗号化されていない xml ファイルを入力とし、xml ファイルを出力とする場合に設定 "e"又は"E" : 暗号化されている 暗号化 zip ファイルを入力とし、暗号化 zip ファイルを出力とする場合に設定
ヘッダ	指定しない	
コメント	半角の"#"で開始	設定行の行末にはコメントを記載してはならない
セクション名	指定しない	

記載例)

#コメント	(正しいコメント)
OQSsiquc01req=e	
OQSsiquc01res=e #コメント	(誤ったコメント)

複数行ある場合は、改行で区切る。

格納先、設定項目は下記の通り。

また、暗号化識別ファイルを更新する際は、メモ帳やテキストエディタを管理者権限で実行すること。

格納先	C:\ProgramData\OQS\OQSComApp\config\encrypt.conf
-----	--

※C:\ProgramData は隠しフォルダであるため、OS の設定にて隠しフォルダも表示する設定とすること。

※連携アプリケーションのバージョンアップを行った場合、下記定義の並び順が一致していない場合があるため、注意すること。

項目名	名称	設定値	説明	必須
OQSsiquc01req	資格確認要求	n	被保険者証情報を使用して、資格情報を単件照会する	○
OQSmuquc01req	資格確認一括照会要求	n	被保険者証情報を使用して、資格情報を一括照会する	○
OQSmuquc02req	資格確認一括照会ダウンロード要求	n	受付番号を用いて、対応する資格確認結果をダウンロード要求する	○
OQSsiimm01req	照会番号登録要求	n	照会番号を単件登録する	○
OQSmuimm01req	照会番号一括登録要求	n	照会番号を一括登録する	○
OQSmuimm02req	照会番号一括登録ダウンロード要求	n	受付番号を用いて、対応する照会番号登録結果をダウンロード要求する	○
logincomapp	端末認証	n	連携端末からの接続を認証する	○
YZKsiquc01req	薬剤情報等閲覧要求	n	薬剤情報等を単件照会する	○
TKKsiquc01req	特定健診情報閲覧要求	n	特定健診情報を単件照会する	○
EPSsiPIR01req	処方箋登録要求	n	医療機関で発行された処方箋情報を登録する	○
EPSsiPIR02req	処方箋取消要求	n	登録済みの処方箋情報の取り消しを行う	○
EPSsiPIR03req	処方箋変更要求	n	登録済みの処方箋情報を変更する	○
EPSsiPIR04req	処方箋取消 UNDO 要求	n	処方箋取消の取り消しを行う	○
EPSsiPIR05req	処方箋変更 UNDO 要求	n	処方箋変更の取り消しを行う	○
EPSsiPIR06req	処方内容（控え）取得要求	n	医療機関からの処方内容（控え）を取得する	○

項目名	名称	設定値	説明	必須
EPSsiPIR07req	処方箋受付要求（引換番号）	n	資格情報と引換番号を用いて調剤対象の処方箋を取得する	○
EPSsiPIR09req	処方箋受付取消要求	n	処方箋受付の取り消しを行う	○
EPSsiPIR10req	処方箋回収要求	n	処方箋を回収する	○
EPSsiDIM01req	調剤結果登録要求	n	電子処方箋管理サービスに、薬局での調剤結果を登録する	○
EPSsiDIM02req	調剤結果取消要求	n	電子処方箋管理サービスに登録した調剤結果を無効にする	○
EPSsiDIM03req	調剤結果変更要求	n	電子処方箋管理サービスに登録した調剤結果を変更する	○
EPSsiDIM04req	処方箋状況及び調剤結果リスト要求	n	電子処方箋管理サービスに登録された処方箋及び調剤結果（自医療機関が登録した処方箋に関するもののみ）のうち、医療機関の指定した期間に登録された処方箋の状況及び調剤結果の調剤結果 ID リストを取得する	○
EPSsiDIM05req	調剤結果要求（調剤結果 ID）	n	調剤結果 ID をもとに、電子処方箋管理サービスに登録された処方箋（自医療機関が登録したもののみ）に対する調剤結果を取得する	○
EPSsiDIM06req	処方箋状況及び調剤結果要求（処方箋 ID）	n	処方箋 ID をもとに、電子処方箋管理サービスに登録された処方箋（自医療機関が登録したもののみ）の状況及び当該処方箋に対する調剤結果を取得する	○
EPSsiDIM07req	調剤済み電子処方箋リスト要求	n	電子処方箋管理サービスに登録された調剤済み電子処方箋（自薬局が登録した調剤済み電子処方箋に関するもののみ）のうち、薬局の指定した期間に登録された調剤済み電子処方箋の調剤結果 ID リストを取得する	○
EPSsiDMP01req	重複投薬等チェック事前処理要求	n	重複投薬等チェック事前処理を実施する	○
EPSsiDMP02req	重複投薬等チェック要求（確定前処方箋情報）	n	確定前処方箋情報に対する重複投薬等チェックを実施する	○
EPSsiDMP03req	重複投薬等チェック要求（確定前調剤結果情報）	n	確定前調剤結果情報に対する重複投薬等チェックを実施する	○

項目名	名称	設定値	説明	必須
EPSsiDIM08req	調剤済み電子処方箋要求（調剤結果ID）	n	調剤結果 ID をもとに、電子処方箋管理サービスに登録された調剤済み電子処方箋（自薬局に登録したもののみ）を取得する	○
EPSsiPIR11req	処方箋回収 UNDO 要求	n	処方箋回収を取り消しする	○
EPSsiPIR08req	処方箋受付要求	n	単件の処方箋受付結果を取得する	○
OQSmutic01req	委託先資格情報の一括取得要求	n	委託されている生活保護受給者の医療券・調剤券情報を一括取得する	○
OQSmutic02req	委託先資格情報の一括取得ダウンロード要求	n	受付番号を用いて、対応する委託先情報の一括取得結果をダウンロード要求する	○
OQSmuhvq01req	同意済資格情報一括取得要求（訪問診療）	n	医療機関コードおよび同意年月日を使用して、訪問診療等の同意登録がある患者の最新の資格情報を一括取得する	○
OQSmuhvq02req	同意済資格情報一括取得ダウンロード要求（訪問診療）	n	受付番号を用いて、対応する訪問診療等の同意済患者の資格確認結果をダウンロード要求する	○
OQSmuonq01req	同意済資格情報一括取得要求（オンライン診療）	n	医療機関コード、同意年月日および受診年月日を使用して、オンライン診療等の同意登録がある患者の最新の資格情報を一括取得する	○
OQSmuonq02req	同意済資格情報一括取得ダウンロード要求（オンライン診療）	n	受付番号を用いて、対応するオンライン診療等の同意済患者の資格確認結果をダウンロード要求する	○
OQSsihvq01req	資格確認要求（訪問診療）	n	被保険者証情報または医療券・調剤券情報を使用して、訪問診療等の同意登録がある患者の最新の資格情報、特定健診情報・薬剤情報等を単件照会する	○
OQSsionq01req	資格確認要求（オンライン診療）	n	被保険者証情報または医療券・調剤券情報を使用して、オンライン診療等の同意登録がある患者の最新の資格情報を単件照会する	○
OQSmuhvq03req	資格確認一括照会要求（訪問診療）	n	被保険者証情報または医療券・調剤券情報を使用して、訪問診療等の同意登録がある患者の最新の資格情報、特定健診情報・薬剤情報等を一括照会する	○

項目名	名称	設定値	説明	必須
OQSmuhvq04req	資格確認一括照会ダウンロード要求 (訪問診療)	n	受付番号を用いて、対応する訪問診療等の資格確認結果をダウンロード要求する	○
OQSmuonq03req	資格確認一括照会要求 (オンライン診療)	n	被保険者証情報または医療券・調剤券情報を使用して、オンライン診療等の同意登録がある患者の最新の資格情報を一括照会する	○
OQSmuonq04req	資格確認一括照会ダウンロード要求 (オンライン診療)	n	受付番号を用いて、対応する資格確認結果をダウンロード要求する	○
OQSiuhvd01req	閲覧同意取り消し要求 (訪問診療)	n	被保険者証情報または医療券・調剤券情報を使用して、訪問診療等の同意情報を取り消しする	○
OQSiurl01req	医療機関アクセス URL 取得要求	n	Web サービスにアクセスする医療機関別の URL および URL の二次元バーコードを取得する	○
OQSiinq01req	医療機関環境設定情報照会要求	n	医療機関の環境設定項目 (医療情報・電子処方箋等の利用設定) を照会する	○
OQSiupd01req	医療機関環境設定情報更新要求	n	医療機関の環境設定項目 (医療情報・電子処方箋等の利用設定) を更新する	○
EPSsiPIR12req	処方箋 ID 検索要求 (医療機関)	n	資格情報と処方箋交付年月日の検索期間をもとに、電子処方箋管理サービスに登録された処方箋 (自医療機関が登録したもののみ) の処方箋 ID のリストを要求する	○
EPSsiPIR13req	処方箋 ID 検索要求 (薬局)	n	資格情報と処方箋交付年月日の検索期間をもとに、自薬局が電子処方箋管理サービスから受付した処方箋の処方箋 ID のリストを要求する	○
EPSsiDIM09req	調剤結果 ID 検索要求	n	資格情報と調剤年月日の検索期間をもとに、電子処方箋管理サービスに登録された調剤結果 (自薬局が登録したもののみ) の調剤結果 ID のリストを要求する	○
EPSsiDIM10req	保管調剤結果登録要求	n	自薬局が電子処方箋管理サービスに登録済の調剤結果 ID のリスト (上限 100 件) を指定し、対象の調剤結果を保存サービスへ登録要求する	○

項目名	名称	設定値	説明	必須
EPSsiDIM12req	保管調剤結果取得（単件）要求	n	自薬局が保存サービスに登録済の調剤結果 ID を 1 件指定し、対象の保管調剤結果を取得要求する	○
PMHsimsm01req	医療費助成情報閲覧要求	n	連携キーの情報をもとに、PMH サーバから取得対象の医療費助成情報を閲覧要求する	○

設定を変更した場合、連携アプリケーションを再起動する必要がある。

以下のバッチを管理者権限で実行し、再起動すること。

C:¥Program Files¥OQS¥OQSComApp¥tools¥OQSComAppRestart.bat

## 4.3 個別暗号化モジュールの設定

外部の暗号化アプリケーションを使用し、要求データファイルを復号／暗号化することができる。

外部の暗号化アプリケーションは事前に利用者が以下の内容で用意すること。

- 前提条件
  - 連携アプリケーションからはプロセス呼出しとするため、バッチファイル（bat、cmd）または実行形式（exe）に対応する。
  - 外部実行ファイルは戻り値として「0：正常」、「0 以外：異常」を返すこと。
  - 暗号化複合化時の問題に関わる情報出力については標準出力または標準エラー出力を使用すること。（ASCII 文字のみ使用可能。連携アプリケーションのログに出力する）
  - 暗号化ファイル名はその暗号種類にかかわらず“.zip”とする。
- 復号時の連携アプリケーションからの呼び出し方
  - 復号モジュール パス付入力ファイル名 パス付出力フォルダ名 パスワード
- 暗号化時の連携アプリケーションからの呼び出し方
  - 暗号化モジュール パス付入力ファイル名 パス付出力ファイル名 パスワード

暗号化アプリケーションの設定手順は以下の通り。

[外部の暗号化アプリケーションの格納]

- ① 資格確認端末内に使用する外部の暗号化アプリケーションを格納する
- ② 外部の暗号化アプリケーションのパスをユーザー定義ファイルの以下の項目に記載する  
ユーザー定義ファイルに関しては[4.4 ユーザー定義ファイルの設定]を参照

項目名	説明	設定値
LoadEncryptionModulePath	暗号化モジュールの格納先	初期値：空白 設定例： C:¥¥module¥¥encryption¥¥encrypt.exe ※1 暗号化モジュールを格納した場所をフルパス指定 ¥マークはエスケープのため¥を前に追加すること。

項目名	説明	設定値
LoadDecryptionModulePath	復号モジュールの格納先	初期値: 空白 設定例: C:¥¥module¥¥encryption¥¥decrypt.exe ※ 1 復号モジュールを格納した場所をフルパス指定 ¥マークはエスケープのため¥を前に追加すること。

※1 “.exe”ファイルの代わりに、暗号化モジュールを呼び出す処理が記載された“.bat”又は“.cmd”ファイルを指定することができる。  
 “.bat”又は“.cmd”内の処理により、暗号化（復号）モジュールの切り替えや、パラメタを変化させることが可能。

例) 暗号化対象ファイルの種類によって、暗号化・平文を切り替える



## 4.4 ユーザー定義ファイルの設定

ユーザー定義ファイルとは、連携アプリケーションに必要なユーザー情報を定義するファイルである。

ユーザー定義ファイルのファイル仕様を以下に示す。

項目	定義形式	備考
ファイルフォーマット	改行区切り、可変長テキスト形式、UTF-8、BOM なし	
改行コード	CR+LF (0x0d, 0x0a)	
行レイアウト	項目=設定値¥n	
ヘッダ	指定しない	
コメント	半角の"#"で開始	設定行の行末にはコメントを記載してはならない
セクション名	指定しない	

記載例)

#コメント	(正しいコメント)
MaxThreadCountSingle=3	
MaxThreadCountBundle=3 #コメント	(誤ったコメント)

複数行ある場合は、改行で区切る。

格納先、設定項目は以下の通り。

また、ユーザー定義ファイルを更新する際は、メモ帳やテキストエディタを管理者権限で実行すること。

格納先	C:¥ProgramData¥OQS¥OQSComApp¥config¥UserDefinition.property
-----	---

※C:¥ProgramData は隠しフォルダであるため、OS の設定にて隠しフォルダも表示する設定とすること。

※連携アプリケーションのバージョンアップを行った場合、下記定義の並び順が一致していない場合があるため、注意すること。

項目名	名称	設定値	説明	必須
MaxThreadCountSingle	単一処理用スレッドプールのスレッド数	設定値: 3 設定範囲: 1~30	連携アプリケーション（単件）で同時に処理するリクエスト数	○
MaxThreadCountBundle	一括処理用スレッドプールのスレッド数	設定値: 1 設定範囲: 1~30	連携アプリケーション（一括）で同時に処理するリクエスト数	○
RequestFileStayTime	要求データファイルの消し忘れ判定時間	設定値: 0 設定範囲: 0~15000	消し忘れファイルの削除機能で、削除対象となる要求ファイルの判定時間（分） 0 が指定された場合、要求データファイルの消し忘れ処理は動作しない	○
ResponseFileStayTime	結果データファイルの消し忘れ判定時間	設定値: 0 設定範囲: 0~15000	消し忘れファイルの削除機能で、削除対象となる結果ファイルの判定時間（分） 0 が指定された場合、結果データファイルの消し忘れ処理は動作しない	○
LoadEncryptionModulePath	暗号化モジュールの格納先	初期値: 空白 設定例: C:¥¥module¥¥encryption¥¥encrypt.exe 暗号化モジュールを格納した場所をフルパス指定 ¥マークはエスケープのため¥を前に追加すること。	個別暗号化を利用する場合に、暗号化に使用するモジュールのパス	×

項目名	名称	設定値	説明	必須
LoadDecryptionModulePath	復号モジュールの格納先	初期値: 空白 設定例: C:¥¥module¥¥encryption¥¥decrypt.exe 復号モジュールを格納した場所をフルパス指定 ¥マークはエスケープのため¥を前に追加すること。	個別暗号化を利用する場合に、復号に使用するモジュールのパス	×
RequestDataDir※1	要求データファイル格納ディレクトリ	設定値:C:¥¥OQS¥¥req※2 ¥マークはエスケープのため¥を前に追加すること。	資格確認要求ファイルを格納する共用フォルダのパス パスは初期設定値以外の場所（例：ネットワークドライブ）でも可能	○
ResponseDataDir※1	結果データファイル格納ディレクトリ	設定値:C:¥¥OQS¥¥res※2 ¥マークはエスケープのため¥を前に追加すること。	資格確認結果ファイルを格納する共用フォルダのパス パスは初期設定値以外の場所（例：ネットワークドライブ）でも可能	○
MaxThreadCountSinglePrescription	単一処理(電子処方箋)用スレッドプールのスレッド数	設定値: 3 設定範囲:1~30	電子処方箋用の連携アプリケーション（単件）で同時に処理するリクエスト数	○

項目名	名称	設定値	説明	必須
MaxThreadCountBundlePrescription	一括処理(電子処方箋)用スレッドプールのスレッド数	設定値: 1 設定範囲: 1~30	電子処方箋用の連携アプリケーション（一括）で同時に処理するリクエスト数	○
PrescriptionRequestDataDir※1 ※3	電子処方箋向け要求データファイル格納ディレクトリ	設定値: C:\¥¥OQS¥¥req※2 ¥マークはエスケープのため¥を前に追加すること。	電子処方箋向け資格確認要求ファイルを格納する共用フォルダのパス パスは初期設定値以外の場所（例：ネットワークドライブ）でも可能	○
PrescriptionResponseDataDir ※1	電子処方箋向け結果データファイル格納ディレクトリ	設定値: C:\¥¥OQS¥¥res※2 ¥マークはエスケープのため¥を前に追加すること。	電子処方箋向け資格確認結果ファイルを格納する共用フォルダのパス パスは初期設定値以外の場所（例：ネットワークドライブ）でも可能	○
PrescriptionRequestFileStayTime	電子処方箋向けの要求データの消し忘れ判定時間	設定値: 0 設定範囲: 0~15000	消し忘れファイルの削除機能で、削除対象となる電子処方箋向け要求ファイルの判定時間（分） 0 が指定された場合、要求データファイルの消し忘れ処理は動作しない	○

項目名	名称	設定値	説明	必須
PrescriptionResponseFileStayTime	電子処方箋向けの結果データの消し忘れ判定時間	設定値: 0 設定範囲:0~15000	消し忘れファイルの削除機能で、削除対象となる電子処方箋向け結果ファイルの判定時間（分） 0 が指定された場合、結果データファイルの消し忘れ処理は動作しない	○
MaxThreadCountSingleVisit	単一処理(訪問オンライン診療)用スレッドプールのスレッド数	設定値: 3 設定範囲:1~30	訪問オンライン診療向けの連携アプリケーション（単件）で同時に処理するリクエスト数	×
PublicMedicalHubRequestDataDir※1※4	PMH 向け要求データファイル格納ディレクトリ	設定値:C:¥¥OQS¥¥req※2 ¥マークはエスケープのため¥を前に追加すること。	PMH 向け資格確認要求ファイルを格納する共用フォルダのパス パスは初期設定値以外の場所（例：ネットワークドライブ）でも可能	×

項目名	名称	設定値	説明	必須
PublicMedicalHubResponseDataDir※1	PMH 向け結果データファイル格納ディレクトリ	設定値:C:¥¥OQS¥¥res※2 ¥マークはエスケープのため¥を前に追加すること。	PMH 向け資格確認結果ファイルを格納する共用フォルダのパス パスは初期設定値以外の場所（例：ネットワークドライブ）でも可能	×
PublicMedicalHubRequestFileStayTime	PMH 向けの要求データの消し忘れ判定時間	設定値: 0 設定範囲:0~15000	消し忘れファイルの削除機能で、削除対象となるPMH向け要求ファイルの判定時間（分） 0 が指定された場合、要求データファイルの消し忘れ処理は動作しない	×
PublicMedicalHubResponseFileStayTime	PMH 向けの結果データの消し忘れ判定時間	設定値: 0 設定範囲:0~15000	消し忘れファイルの削除機能で、削除対象となるPMH向け結果ファイルの判定時間（分） 0 が指定された場合、結果データファイルの消し忘れ処理は動作しない	×

項目名	名称	設定値	説明	必須
MaxThreadCountSinglePublicMedicalHub	単一処理(PMH)用スレッドプールのスレッド数	設定値: 3 設定範囲: 1~30	PMH 向けの連携アプリケーション（単件）で同時に処理するリクエスト数	×

※1 顔認証 DLL を含め、要求データファイル格納ディレクトリと結果データファイル格納ディレクトリに同じパスを指定しないこと。

※2 ネットワークドライブの場合は UNC、または IP アドレスにて記載すること。

例: ¥¥¥¥onshikaku.local¥¥res

FaceDataDir=¥¥¥¥\*. \*.\*.\*¥¥res

※C:¥¥OQS¥res の res フォルダが共有されている場合の例である。

※3 顔認証機器を導入している場合、顔認証 DLL の電子処方箋向け要求データファイル格納ディレクトリ（PrescriptionDataDir）と同じパスを指定していること。

※4 顔認証機器を導入している場合、顔認証 DLL の PMH 向け要求データファイル格納ディレクトリ（PublicMedicalHubDataDir）と同じパスを指定していること。

設定を変更した場合、連携アプリケーションを再起動する必要がある。

以下のバッチを管理者権限で実行し、再起動すること。

C:¥Program Files¥OQS¥OQSComApp¥tools¥OQSComAppRestart.bat

※複数の定義ファイルを変更した場合は、全てのファイルの変更に、1 回だけバッチを実行すること。



## 4.5 システム定義ファイルの設定

システム定義ファイルとは、連携アプリケーションに必要なシステム情報を定義するファイルである。

システム定義ファイルのファイル仕様を以下に示す。

項目	定義形式	備考
ファイルフォーマット	改行区切り、可変長テキスト形式、UTF-8、BOM なし	
改行コード	CR+LF (0x0d, 0x0a)	
行レイアウト	項目=設定値¥n	
ヘッダ	指定しない	
コメント	半角の"#"で開始	設定行の行末にはコメントを記載してはならない
セクション名	指定しない	

記載例)

#コメント	(正しいコメント)
RequestFileWaitSpan=10	
RequestFileWaitSpan=10 #コメント	(誤ったコメント)

複数行ある場合は、改行で区切る。

格納先、設定項目は下記の通り。

また、システム定義ファイルを更新する際は、メモ帳やテキストエディタを管理者権限で実行すること。

格納先	C:¥Program Files¥OQS¥OQSComApp¥conf¥SystemDefinition.property
-----	---

項目名	名称	設定値	説明	必須
CredentialKey	暗号化パスワードの資格情報マネージャーのキー	設定値: OQS_CRYPT_PASS	暗号化パスワードの資格情報マネージャーのキー	○
OqsLoginKey	オンライン資格確認システムへのログイン情報を取得するために資格情報マネージャーのキー	設定値: OQS_LOGIN_KEY	オンライン資格確認システムへのログイン情報を取得するために資格情報マネージャーのキー	○
RequestFileWaitSpan	要求データファイル検出待ち時間	設定値: 10 設定範囲※2: 0~60	要求データファイル検出待ち時間（秒）	○
RequestFileWaitCount	要求データファイル確認回数	設定値: 360 設定範囲※2: 0~1444	要求データファイル確認回数	○
RequestDataProcDir※1	要求データファイル処理ディレクトリ	設定値: C:¥¥ProgramData¥¥OQS¥¥OQSCo mApp¥¥work¥¥input	一時的に処理するファイルを格納する要求データファイル処理ディレクトリ	○
ResponseDataProcDir※1	結果データファイル処理ディレクトリ	設定値: C:¥¥ProgramData¥¥OQS¥¥OQSCo mApp¥¥work¥¥output	一時的に処理するファイルを格納する結果データファイル処理ディレクトリ	○
LoadEncryptionDataProcDir※1	個別暗号化データファイル処理ディレクトリ	設定値: C:¥¥ProgramData¥¥OQS¥¥OQSCo mApp¥¥work¥¥load	一時的に処理するファイルを格納する個別暗号化データファイル処理ディレクトリです。	○
ComAppWorkDir※1	連携アプリ作業用ディレクトリ	設定値: C:¥¥ProgramData¥¥OQS¥¥OQSCo mApp¥¥work	一時的に処理するファイルを格納する連携アプリ作業用ディレクトリです。	○

項目名	名称	設定値	説明	必須
UseDebugLog	デバッグログを出力	設定値: false  true と false が指定可能  true: デバッグログを出力する false: デバッグログを出力しない	デバッグログを出力※3	
LogRotateTime	ログをローテーションする日数	設定値:7 設定範囲: 0~365	ログをローテーションする日数を設定する項目 0 が指定された場合、ローテーション処理は動作しない※3	○
CompleteThreadCollectSpan	完了したスレッドの削除間隔	設定値:5000 設定範囲: 1000~1800000	完了したスレッドの削除間隔です。秒で指定。 設定値が大きいほど、完了したスレッドを削除間隔が長くなります。	○
UseCRLF	改行コードの使用有無	設定値:false true と false が指定可能  true: 出力する結果データファイルに改行コードありで整形する false: 出力する結果データファイルに改行コードを含まない	出力する結果データファイルに改行コードを含んで整形して出力するか判定するフラグ	○
ResponseDataProcTempDir	バイナリファイル処理ディレクトリ	設定値: C:¥ProgramData¥OQS¥OQSComApp¥work¥zipoutput	一時的に処理するバイナリファイルを格納するディレクトリ	

※1 ディレクトリに同じパスを指定しないこと。設定値を規定値から変更した場合、以下の点に注意すること。

- ① 指定先フォルダが存在すること
- ② 指定先フォルダに書き込み権限が付与されていること

※2 連携アプリケーションでは、以下の2つの機能を利用し、要求データファイルの監視を行う。

- ① タスクスケジューラを利用した要求データファイルの監視
- ② 連携アプリケーションプログラムでの要求データファイルの監視

①は2秒に1回実行し、要求データファイルが存在した場合連携アプリケーションプログラムを起動する。

RequestFileWaitSpan を1~60、RequestFileWaitCount が1~1440 指定した場合

RequestFileWaitSpan と RequestFileWaitCount の設定値の掛け算分②を行い、

①の実行を抑止して処理を高速化する。

RequestFileWaitSpan または RequestFileWaitCount に0が指定された場合、②は実行せず①のみ行う。

※3 資格確認端末は、UseDebugLog が **false** かつ、LogRotateTime が **7** であることを想定している。

- ・ UseDebugLog を true または LogRotateTime を 8 以上にする場合は、Cドライブに十分な空き容量があることを計算した上で変更すること。
- ・ LogRotateTime が 6 以下の場合は、問題発生時に十分な資料が採取できない場合がございますので、了承の上変更すること。

【参考】1日当たりのログの蓄積サイズについて

以下の条件の場合、連携アプリケーションが出力するログのサイズは500MB/1日を想定。

■条件

- ・システムとしてエラーが発生していない
- ・UseDebugLog=False(デバッグログを出力しない)
- ・1日の処理回数が4000回

設定を変更した場合、連携アプリケーションを再起動する必要がある。

以下のバッチを管理者権限で実行し、再起動すること。

C:¥Program Files¥OQS¥OQSComApp¥tools¥OQSComAppRestart.bat

※複数の定義ファイルを変更した場合は、全てのファイルの変更後に、1 回だけバッチを実行すること。

## 4.6 消し忘れファイルの削除機能の設定

消し忘れファイル削除機能を有効にするにはユーザー定義ファイルの以下の設定値を 0 以外の文字列に変更する必要がある。

項目名	設 定 値 (分)
RequestFileStayTime※1	設定値: 0 設 定 範 囲:0~15000
ResponseFileStayTime※1	設定値: 0 設 定 範 囲:0~15000
PrescriptionRequestFileStayTime※1	設定値: 0 設 定 範 囲:0~15000
PrescriptionResponseFileStayTime※1	設定値: 0 設 定 範 囲:0~15000
PublicMedicalHubRequestFileStayTime※1	設定値: 0 設 定 範 囲:0~15000
PublicMedicalHubResponseFileStayTime※1	設定値: 0 設 定 範 囲:0~15000

※1 RequestFileStayTime と ResponseFileStayTime 、 PrescriptionRequestFileStayTime と PrescriptionResponseFileStayTime 、 PublicMedicalHubRequestFileStayTime と PublicMedicalHubResponseFileStayTime の設定値がそれぞれ 0 の場合、消し忘れファイルは削除されない。

消し忘れファイル削除機能が有効の場合、以下のディレクトリに格納されている対象ファイル※2 が削除対象となる。

① RequestFileStayTime と ResponseFileStayTime の対象

- 要求データファイル格納ディレクトリ
- 結果データファイル格納ディレクトリ
- 顔認証結果データファイル格納ディレクトリ※3

② PrescriptionRequestFileStayTime と PrescriptionResponseFileStayTime の対象

- 電子処方箋向け要求データファイル格納ディレクトリ
- 電子処方箋向け結果データファイル格納ディレクトリ
- 顔認証処方箋情報要求格納ディレクトリ※3

③ PublicMedicalHubRequestFileStayTime と PublicMedicalHubResponseFileStayTime の対象

- PMH 向け要求データファイル格納ディレクトリ
- PMH 向け結果データファイル格納ディレクトリ
- 顔認証 PMH 情報要求格納ディレクトリ※3

※2 削除対象のファイル拡張子は".xml"、".zip"、".pdf"、".err"となる。

※3 OqsFaceApp が導入されていた場合、対象になる。

消し忘れファイルを削除した際には、「DelFile」から始まるテキストファイルに、削除したファイルを記載し通知する。通知テキストは、結果データ格納ディレクトリ※4 に出力される。出力された通知テキストは、消し忘れファイルで削除できませんので、手動で削除すること。

※4 ユーザー定義ファイルの ResponseDataDir で指定したディレクトリ

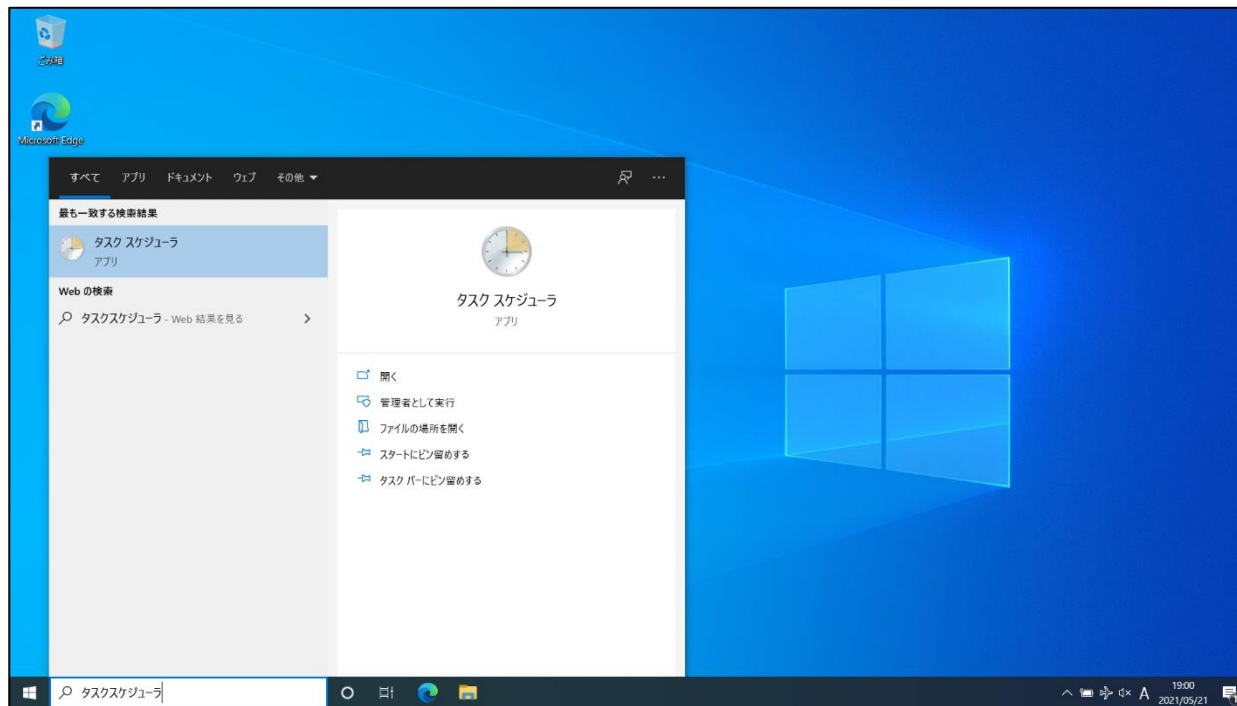
## 5. 連携アプリケーションの定期起動の設定

「連携アプリケーション」は、Windows の機能である[タスクスケジュー]の機能を使用して、定期的に連携ファイルの処理を実行する。以下の手順にて定期起動の設定を行う。

[定期実行の追加]

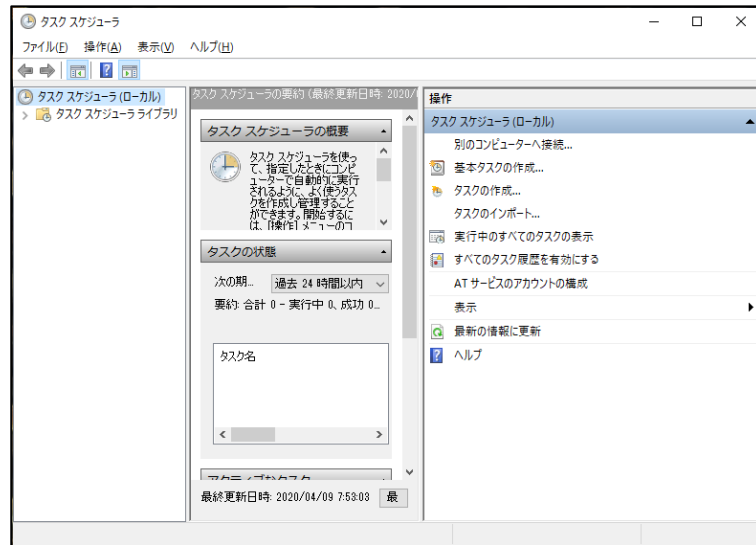
タスクスケジューを起動

① ステータスバーの検索ボックスに"タスクスケジュー"と入力し、タスクスケジューを起動する。

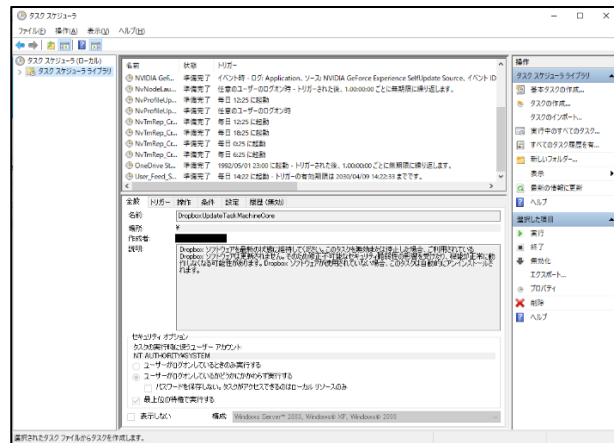




② [タスクスケジューラ]が起動する



③ 左の領域で[タスクスケジューラライブラリ]を選択し、右の領域で[タスクのインポート]をクリックする。

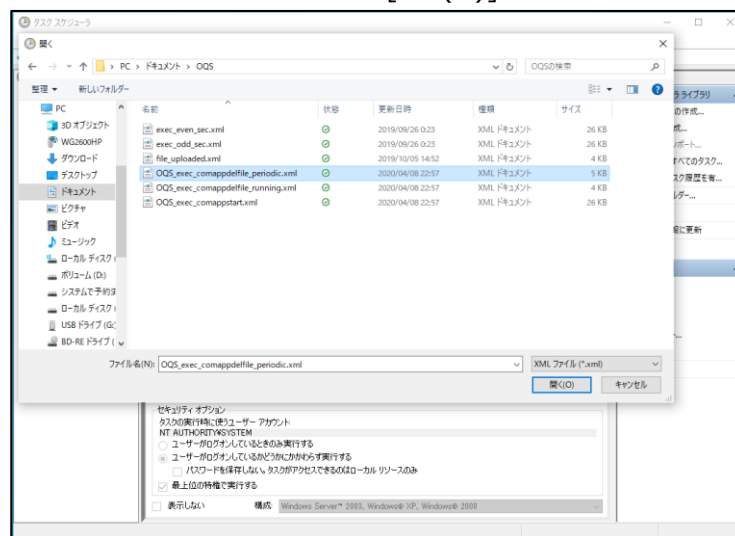


④ ファイル選択のために[開く]ウィンドウが開く。

タスクのインポートで指定するファイルは、c:¥Program Files¥OQS¥OQSComApp¥tools に格納された以下のファイルである。

ファイル名	用途
OQS_exec_comappdelfile_periodic.xml	消し忘れファイル機能定期実行用タスクファイル
OQS_exec_comappdelfile_running.xml	消し忘れファイル機能 PC 起動時実行用タスクファイル
OQS_exec_comappstart.xml	連携アプリ定期実行用タスクファイル

⑤ インポートするタスクを選択し、[開く(O)]ボタンをクリックする。



⑥ タスクが取り込まれ[タスクの作成]ダイアログが開くので、[ユーザーまたはグループの変更(U)…]ボタンをクリックする。

タスクの作成

全般 トリガー 操作 条件 設定

名前(N): QOS exec comappdelete.periodic

場所(L): ¥

作成者(C): [Redacted]

説明(D): オンライン資格確認システムファイル連携アプリ消し忘れファイル削除タスク<一定周期繰り返す>

セキュリティ オプション

タスクの実行時に使うユーザー アカウント:

QosComApp [ユーザーまたはグループの変更(U)…]

☐ ユーザーがログオンしているときのみ実行する(R)

☒ ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W)

☐ パスワードを保存しない(E) (タスクがアクセスできるのはローカル コンピューター リソースのみ)

☐ 最上位の特権で実行する(I)

☐ 表示しない(E) 構成(C): Windows 10

OK キャンセル

⑦ ユーザーまたはグループの変更ダイアログが開くので、選択するオブジェクト名を入力してください欄に QosComApp を入力し、[名前の確認(C)]ボタンをクリックする。

ユーザー または グループ の選択

オブジェクトの種類の選択(S):

ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル [オブジェクトの種類(O)…]

場所の指定(E):

[Redacted] [場所(L)…]

選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E):

QosComApp [名前の確認(C)]

詳細設定(A)… OK キャンセル

- ⑧ 現在作業中のユーザー（[ユーザーの追加]で追加したユーザー）が選択される。  
[OK]ボタンをクリックして[ユーザーまたはグループの選択]を閉じる。

ユーザー または グループ の選択

オブジェクトの種類の選択(S):  
ユーザー、グループまたはビルトイン セキュリティプリンシパル    オブジェクトの種類(O)...

場所の指定(E):  
    場所(L)...

選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E):  
#QqsComApp    名前の確認(C)

詳細設定(A)...    OK    キャンセル

- ⑨ [タスクの作成]画面に戻るので、[OK]ボタンをクリックする。

タスクの作成

全般    トリガー    操作    条件    設定

名前(M): OQS\_exec\_comappdelfile\_periodic

場所: ¥

作成者: G-ONE¥jyubi

説明(D): オンライン資格確認システムファイル連携アプリ消し忘れファイル削除タスク<一定周期繰り返し>

セキュリティ オプション

タスクの実行時に使うユーザー アカウント:  
#QqsComApp    ユーザーまたはグループの変更(U)...

☐ ユーザーがログオンしているときのみ実行する(E)

☒ ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W)

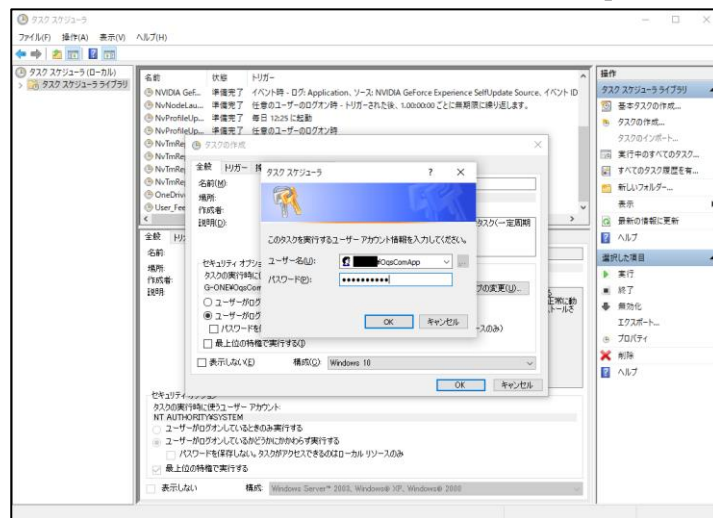
☐ パスワードを保存しない(E) (タスクがアクセスできるのはローカル コンピューター リソースのみ)

☐ 最上位の特権で実行する(I)

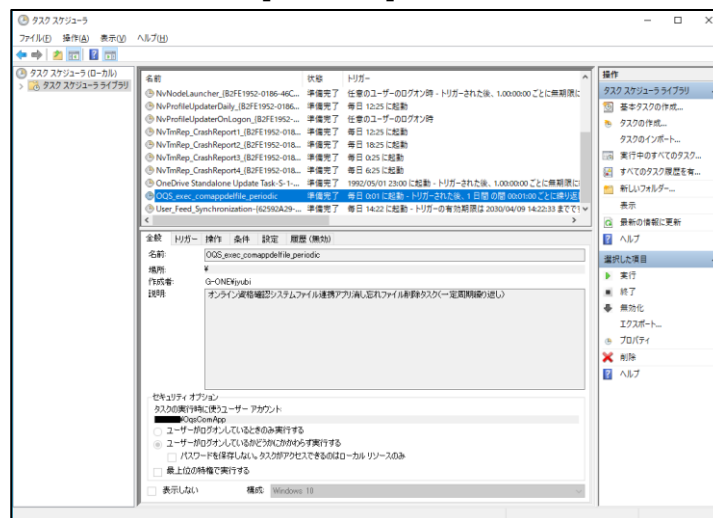
☐ 表示しない(X)    構成(C): Windows 10

OK    キャンセル

⑩ パスワードを入力するダイアログが表示されるので、[ユーザーの登録]で設定したパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックする。



⑪ タスクが登録され、[準備完了]状態となる。この状態でタスクが定期実行される。

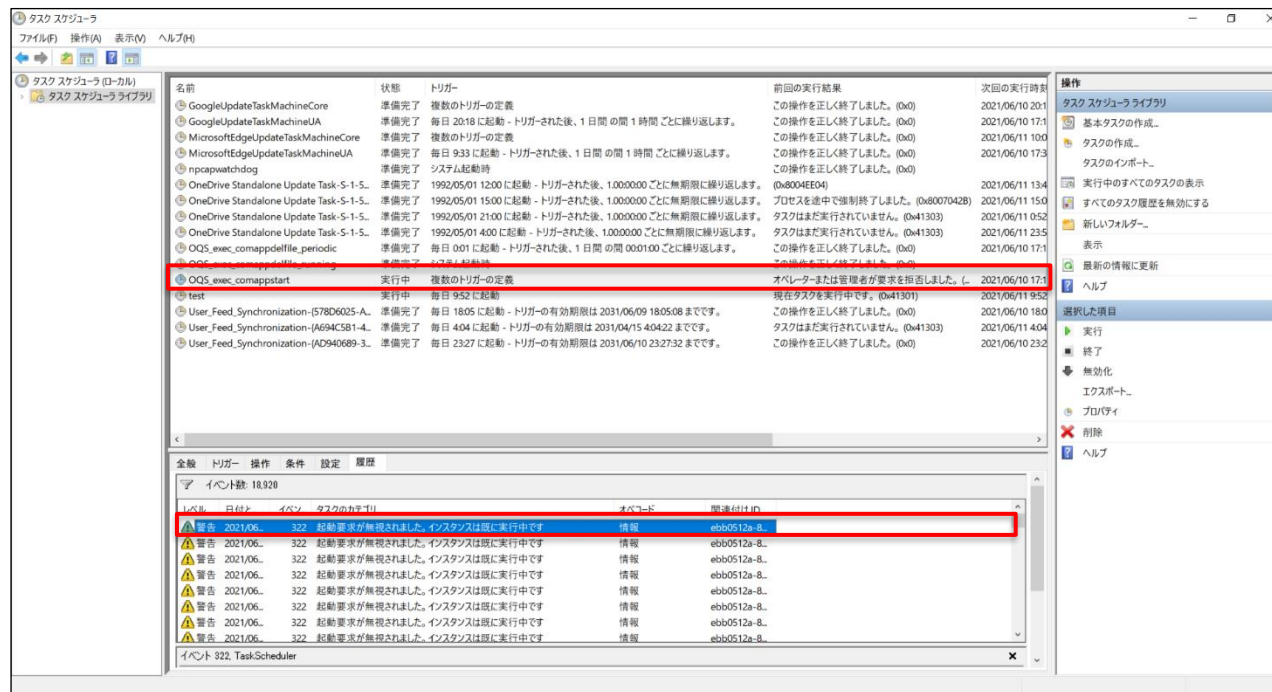


⑫ 同様に、他の2つのタスクについても、登録を行う。

## 【注意】

連携アプリケーションは、2 秒に 1 回起動タスクを実行している。

既に連携アプリが起動している場合、二重起動防止のため「オペレーターまたは管理者が要求を拒否しました」や「起動要求が無視されました。インスタンスは既に実行中です」と表示される。こちらのメッセージに関しては二重起動が正しく防止されているために出力されるメッセージであり、特に問題はない。



## 6. 導入後の動作確認手順

導入後の動作確認は「医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）」を確認すること。

### 【注意】

連携アプリケーションにおける文字コード「Shift\_JIS」の扱いは、JIS の第一水準と第二水準以外の文字は対応していない。

要求データファイルに Shift\_JIS 範囲外※1 の文字コードが存在する場合、要求データの取り込みが行えずに OQSB3135E エラー※2 となる。

個別設定マスタの文字コード識別が“1”(Shift\_JIS)の場合で、返却する結果データに Shift\_JIS 範囲外※1 の文字コードが存在する場合は、連携アプリケーションにて、該当文字を“●”（UTF-8 文字コード=E2978F）に変換し結果ファイルへ返却する。

“●”への変換について、結果ファイル内の要求時のパラメタも含め、全てのデータに対して Shift\_JIS 範囲外の文字の場合は変換対象となる。

※1 JIS の第一水準、第二水準以外

※2 OQSB3135E の詳細は別紙\_処理結果コード参照

例) “●”に変換される文字

要求ファイル → 結果ファイル

川崎                      川●

1 2 — 3 4              1 2 ● 3 4